社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス
海老名総合病院
座間総合病院
海老名メディカルプラザ

平成29年秋号

ちれん便り

特集

救命救急センター 開設後の活動現況

Contents

- ボツリヌス注射について
- 365日リハビリテーション提供スタート
- ＪＭＡえびな健康まつり ご報告、病理カンファレンス ご案内
- 平成29年4月～9月実績報告、編集後記

JAPAN MEDICAL ALLIANCE
社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス

【発行】：海老名総合病院・座間総合病院　地域連携課　　【発行日】 平成29年11月

＜海老名＞ 〒243-0433　神奈川県海老名市河原口1320　ＴＥＬ：046-234-6719 (地域連携課直通)
＜座 間＞ 〒252-0011　神奈川県座間市相武台 1-50-1　ＴＥＬ：046-251-3700 (地域連携課直通)

救命救急センター開設後の活動現況

当センターは、神奈川県央医療圏で唯一の救命救急センターとして今年４月1日より始動しました。

本年度より救急科専従医を8名に増員し（専門医内訳は別表１）、救急専門病棟を20床整備することで、「断らない救急」をスローガンに救急患者さんの受け入れを強化しています。

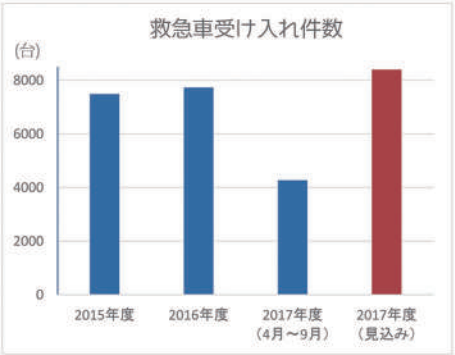
開設より現在まで約700台/月の救急車受け入れ、ウォークイン患者は約900人/月となっており、1次から3次救急患者まで幅広く受け入れが可能な体制となっています。今後は、年間8,400台の救急車受け入れが見込まれています。（図1）

また、救急車応需率も本年度は94.3%と改善しております。（図2）救急車にて搬送された重症患者の占める割合が11.3%（2016年度）から28.0%（2017年度）へと増加し、より重症患者の受け入れが可能になっています。また、重症区分の詳細は図3に示したように、重症敗血症と重症外傷が半数以上を占めております。さらに、急性薬物中毒や熱中症などの環境障害といった特殊な病態を有する患者様の受け入れも積極的に行っております。

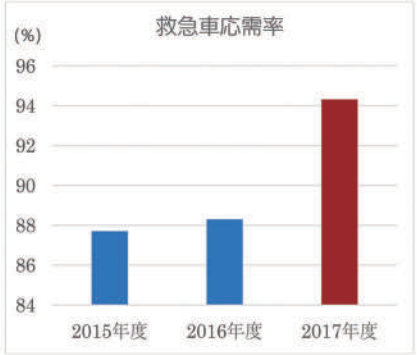
＜別表1＞

救命救急センター医師 専門医別内訳	
救急科専門医	6名
外科専門医	3名
精神保健指定医	2名
外傷専門医	1名

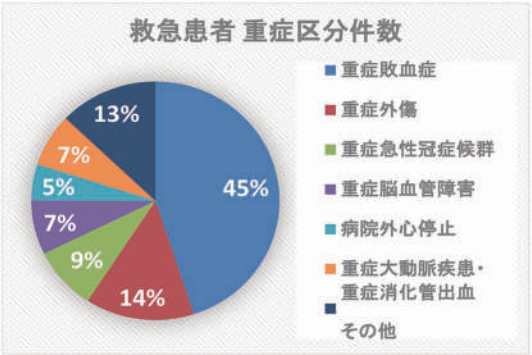
＜図1＞



＜図2＞救急車応需率＝受け入れ件数 / 要請件数



＜図3＞



現在の体制において、原則受け入れができない疾患は、四肢の開放骨折、再接着を要する切断肢です。これら疾患に関しては、今後体制が整備され次第応需していく方針です。

また、各開業医の先生方からのご紹介に関しましては、まずは当院地域連携課にご連絡ください。症例によっては各科専門医へ、重症度や診断が確定的でない患者様については救急科へ、という流れをベースに調整をおこないます。ご協力をお願いいたします。

最後に救命センターの運用は始まったばかりでありますので、近隣医療機関の方々にはご迷惑をおかけすることもあるかとは存じます。スタッフ一同、県央医療圏の救急医療体制を向上するために努力してまいりますので宜しくお願いいたします。

ボツリヌス療法について

座間総合病院　脳神経外科　医長　藤井咲樹子

脳卒中の後遺症でよく見られる運動障害のひとつに、痙縮があります。

痙縮とは、脳卒中で麻痺が生じた手足に筋肉のつっぱりが起こることです。その結果、手足の動きが制限されて関節が固くなり、日常生活で不便が生じたり、リハビリテーションにも悪影響が出てしまいます。

痙縮（けいしゅく）

●筋肉が緊張しすぎてしまう状態で、手足がこわばったり、つっぱったりします。

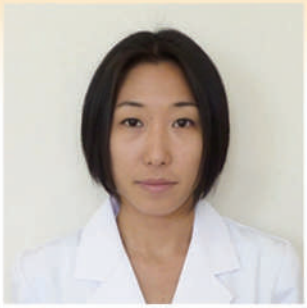
●片まひと同じ側の手足にあらわれることがほとんどです。

痙縮に対する治療には、①内服治療 ②注射による治療（ボツリヌス療法） ③外科的治療があります。

当院では、①内服治療と②ボツリヌス療法を中心に痙縮の治療を行っています。

ボツリヌス療法とは、ボツリヌス菌の毒素であるタンパク質（ボツリヌストキシン）を有効成分とする薬剤を、痙縮を起こしている筋肉に注射し、筋肉の緊張を緩和する治療です。筋肉の緊張がほぐれることで、次に挙げるような効果が得られます。

・手足の筋肉が柔らかくなり、日常生活動作がやりやすくなる。
・関節が固くなり動きにくくなったり、変形するのを防ぐ（拘縮予防）
・リハビリテーションがしやすくなる。
・介護の負担が軽くなる。
・痛みが和らぐ。



藤井 咲樹子 医師
日本医科大学卒業
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医

ボツリヌス療法は、痙縮を治したい筋肉だけ選択的に治療することができ、内服治療に比べて得られる効果も大きいです。

当院では、筋電図とエコーを使用し、痙縮の原因となっている筋肉を同定して治療しています。

治療が必要な状態かどうかの判定も行っておりますので、お気軽にご相談ください。

リハビリテーション科
365日リハビリテーション提供スタート!!

この度、8月より海老名総合病院および座間総合病院の急性期病棟において日曜、祝祭日を含めた365日リハビリテーション提供をスタートさせました。

365日リハビリテーション提供は今や回復期病院においては一般的となっていますが、急性期病院において365日リハビリテーション提供を行なう施設は少ないのが現状です。

しかし、早期の機能回復と早期退院が求められる急性期病院であるからこそ、目前に迫った自宅退院への準備、退院後の生活指導と継続したリハビリテーションへの配慮等々、行なうべき業務は多岐にわたります。また、多職種と連携をとりながら情報を共有し、患者さん、ご家族さんにとって、安心して退院できるよう支援するため、患者さんに寄り添うことができる１日１日が大変貴重になります。日曜日や祝日にご面会に来られるご家族さんと一緒になってリハビリテーションを展開できることは、機能や能力的ゴール、介助方法の共有、退院後の安心した生活の為に大変有用な機会となります。

リハビリテーションの成果やかかわりの証が患者さん、ご家族さんのみならず、地域や施設の方々にも伝わりますよう、日々のリハビリテーションを大切にしていきます。

第12回　ＪＭＡ えびな健康まつり ご報告

平成29年10月22日(日) に海老名総合病院・海老名メディカルプラザ合同主催の〝第12回ＪＭＡえびな健康まつり〟を開催し、悪天候にも関わらず、昨年以上の来場者様にお越し頂きました。

例年、地域住人の健康増進や予防医療の観点より健康関連のみの祭りを開催していましたが、今年度より、地域のご家族皆さんで楽しみながら健康を学んで頂ける祭りをテーマに、お子様向けの展示を多く出展し、大変好評を頂きました。来年もご家族皆様で楽しめる祭りを開催致しますので、よろしければぜひ足をお運び下さい！

第20回 地域連携 病理カンファレンス ご案内

当院へご紹介頂いた患者さんの病理症例を基に、病理医師・外科医師・地域の先生方とのカンファレンスを開催します。ぜひご参加下さい。

日時：平成29年11月15日（水）19：00
場所：海老名総合病院　B館3階　講義室
対象：職種問わず どなたでもご参加頂けます
症例：外科症例　2例

病理カンファレンス初　ミニ講演会を開催！

『病理医が困ってる？　膵腫瘍診断の問題点と新たな分類』

東海大学医学部 基盤診療学系
病理診断学 講師　平林健一 先生

【お問い合わせ先】
海老名総合病院　地域連携課　Tel：046-233-1311 (代)

海老名・座間 紹介件数報告

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
海老名総合病院	紹介状件数	598	640	619	667	672	690
	診療報告書	443	467	470	454	386	412
	診療情報提供書	491	482	539	466	413	405
海老名メディカルプラザ	紹介状件数	397	405	383	460	446	455
	診療報告書	266	235	247	241	266	305
	診療情報提供書	267	259	223	247	263	232
海老名総合病院 海老名メディカルプラザ 合計	検査電話予約	147	148	155	129	136	137
	紹介受診予約	175	171	180	153	154	188
	救急依頼電話	90	97	90	108	105	116

座間総合病院	紹介状件数	337	340	382	322	310	333
	診療報告書	186	164	168	165	168	153
	診療情報提供書	220	204	221	187	244	224
	検査電話予約	56	61	64	57	66	80
	紹介受診予約	21	26	37	21	22	30
	救急依頼電話	16	30	30	32	23	25

・編集後記・

平素より医療機関の皆様方におかれましては大変お世話になっております。

今号より紙面をリニューアルいたしました。これからも地域の皆様への情報発信の役割を果たし、微力ながら地域の医療の発展に貢献できるよう一層努めてまいります。

当院の診療情報や検査項目など、皆様が知りたい情報などが有りましたら、是非お知らせください。今後ともよろしくお願いいたします。　　地域連携課　Ｙ・Ｈ